

充実した臨地実習の実際

※()内は2022年度の実習地

公衆衛生看護活動展開実習:3週間(西宮市)



3歳児健診での健康教育場面
テーマは“親子で楽しく手洗いしよう”

地域診断をもとに立てた実習計画にそって実習を展開します。個から集団へ対象を拡げ、保健所・保健センター等で行われている保健事業への参加および個別への支援の積み重ねから、保健活動の実際を学びます。

<参加事業例> 乳児健康相談、1歳6か月児・3歳児健診、プレママ料理教室、ひきこもり青年の家族交流会

公衆衛生看護管理実習:1週間(西宮市)

施策の企画、立案、実施および評価の実際を学ぶため、市の保健分野に関連する委員会や審議会等への出席や管理職の保健師への同行等を行います。

<出席会議等例> 西宮市地域福祉計画策定委員会、健康フェア実行委員会、管理職の各保健センター巡回への同行

1年前期・後期

個人・家族

2年前期

集団・地域
(都市部)

2年前期

集団・地域(山間部)

2年後期

施策化

公衆衛生看護コミュニティ展開実習:2週間 (朝来健康福祉事務所・朝来市)



育児相談での一場面

“何か心配なことはありますか?” 精神障害者家族会、健康ウォーキング教室

実習地域の健康課題に沿った保健活動の展開を行い、健康課題の解決に向けた地域特性をふまえた保健活動の実施・評価ができる能力を養います。

公衆衛生看護活動展開実習の都市部とは異なる、山間部の文化や生活等を学び、保健活動の共通点や相違点を考察することにより普遍的な保健活動と地域特性に応じた保健活動のあり方を探求します。

<参加事業例> 8か月児健診、1歳育児相談、高血圧健康教室、

“何か心配なことはありますか?” 精神障害者家族会、健康ウォーキング教室

広域実践看護学実習(公衆衛生看護学):1年間 (西宮市地域包括支援センター・武庫川女子大学子育てひろば)

家庭訪問の場面



“大きくなったかな?”



“体調はお変わりありませんか?”

インタビュー場面



“活動継続の秘訣は何でしょうか?”

乳児と高齢者への継続家庭訪問(各8回・計16回)を実施し、対象者を家族として捉え継続支援について検討します。この継続したアウトリーチ活動により、自ら対象者と関係を構築できる対人関係能力を養うとともに自立心と判断力を獲得していきます。

地域の社会資源を把握するため、社会資源の見学とキーパーソンへのインタビュー、実際に対象者の住むまちを歩いて地域の特性を理解する地区視診も行います。

実習以外にも実践の機会が豊富にあります

健康相談の場面



“健康のために気をつけていることはありますか?”

健康教室の場面



地域の介護予防事業や子育て支援拠点事業に参加されている方へ健康に関する教室や健康指標の測定を企画し、実施しました。